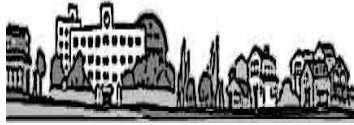




# 浜ぼうふう

～人，まち，自然が私たちの学校～



太夫浜小学校だより  
令和2年6月23日

<http://www.tayuhama-e.city-niigata.ed.jp/>

## 凡事徹底

校長 野瀬 浩司

6月に入り，ようやく通常授業が再開されました。マスクの着用やこまめな手洗いを徹底させたり，給食中は極力おしゃべりをしないようにしたり，人との距離を意識させたり，学校においても，「新しい生活様式」を実践しています。

さて，4月から子どもたちの様子を見ていて，感心することがいくつかあります。例えば，次のようなことです。

- ・ 20分休み・昼休みの終了時刻5分前には，遊びを止め，教室などに移動していること。
- ・ 児童玄関の下駄箱や傘立ての整頓がきちんとしていること。

学校現場では，「5分前行動」や「玄関は学校の顔（だから，きれいに!）」といった言葉をよく使いますが，実践するのは簡単ではありません。しかし，当校においては，休み時間終了前の子どもたちの動きは，ほぼ完璧です。児童玄関も「きれいにしよう」という意識が高いようです。もしかしたら，意識するというよりも，当然のこととして身に付いているのかもしれません。もちろん，個人差はありますので，担任からの指導が入ることもあります。ほとんどの場合，すぐに改善されます。



登校後の下駄箱（6年生）

上記のようなことは，「主として高学年が実践し，それを見て下学年がまねをする」という好循環が生まれ，長い時間をかけて「伝統」のようなものが構築されたのだと思います。子どもたちにも，「太夫浜小の自慢」と認識させ，継続していきたいものです。

凡事徹底。「何でもないような当たり前のことを徹底的に行うこと」であり，「当たり前のことを他の追随を許さないほど極めること」です。授業開始時刻に着席していることも，下駄箱の上には内履きを，下には外履きを入れることも，登校班の集合場所で「おはよう」とあいさつすることも，家庭学習を学年相当の時間毎日行うことも，徹底できれば，どれもすばらしいことです。

どんな小さなことでも継続することは力になります。それが，自信や次への意欲につながります。内容によっては，小学生が「極める」ことも可能です。個人レベルではなく**組織的に行うことで，共通の目標に向かって努力する風土や一体感が醸成**されます。それは，学校としての「成長」でもあります。

太夫浜小学校は，教職員も子どもたちも，「凡事徹底」できる集団でありたいと思っています。